

市民まちづくり局

一般会計要求総額

13,564,485 千円
(対前年度 +12.0%)

< 要求の基本的考え方 >

市民にとっても訪れる人にとっても魅力あるまちにするための都市整備を行う。

市民自治が息づくまちづくりを目指して、地域の主体的なまちづくり活動に対する支援を行う。

(単位：千円)

将来を見据えた魅力ある都市の整備

— 主要事業 —

要求額

大通交流拠点再整備計画策定・・・3,000〔企画部〕
札幌駅交流拠点再整備構想策定・・・17,000〔企画部〕
地域特性に応じた土地利用の再構築事業・・・12,000〔都市計画部〕
道路交通調査・・・43,000〔総合交通計画部〕
北海道新幹線推進費・・・20,061〔企画部〕

市民の主体的な地域づくりの支援

まちづくりセンター地域自主運営化推進・・・42,500〔地域振興部〕
市民まちづくり活動促進総合事業(基金含む)・・・57,493〔地域振興部〕

その他

さっぽろセーフティサイクリング2009・・・5,000〔地域振興部〕
平和都市宣言普及啓発事業・・・10,000〔地域振興部〕

：新規事業 ：バ・ル・ア・ッ 事業

● 魅力あふれる都心の拠点づくりを進めます

大通交流拠点再整備計画策定

札幌駅前通と大通の交差点において、駅前通地下歩行空間や周辺民間ビルとの連携を図りながら、「サッポロ広場」整備計画の検討を進めます。

事業費 3,000 (新規)
主な内訳：検討委託料 2,280
事務費 720
達成目標 H22 サッポロ広場形成計画の策定
21年度効果 計画案の策定

札幌駅交流拠点再整備構想策定

新幹線の乗り入れを見据え、将来に向けた札幌駅周辺の再整備構想について検討します。

事業費 17,000(20年度予算額 8,000)
主な内訳：検討委託料 14,640
事務費 2,360
達成目標 H22 再整備構想の策定
21年度効果 構想案の検討

● 快適で魅力的な地域への再構築

地域特性に応じた土地利用の再構築事業

優先的に対応を図るべき土地利用上の課題を有する地区について、土地利用計画の策定や見直しに向けた必要な措置を講じます。

事業費 12,000(20年度予算額 11,000)
主な内訳：ワークショップ等委託料 9,000
事務費 3,000
達成目標 地区計画の決定、変更数
H18 - H22 3地区
21年度効果 1地区

● 将来の交通体系を検討します

道路交通調査

18年度に実施したパーソントリップ調査を基に、交通実態の調査・解析を行い、将来を見据えた交通体系の検討を引き続き行います。

21年度は、都市交通マスタープランの策定に向け、パブリックコメントを行ったうえで、計画を策定します。

事業費 43,000(20年度予算額 87,000)
主な内訳：都市交通マスタープランの策定
都市・地域総合交通戦略の検討
将来道路網の検討

●北海道新幹線の誘致

北海道新幹線推進費

円滑な事業実施に向けた関連事業調整や新幹線の効果を確実に発揮するためのまちづくりを検討するほか、早期開業に向けた中央要望や市民啓発活動を行う。

事業費 20,061(20年度予算額 15,000)
主な内訳：中央要望 1,560
啓発活動 6,248
関連事業調整・まちづくり検討 7,000



●地域課題解決活動を支援

まちづくりセンター地域自主運営化推進

より地域の個性を活かしたまちづくりを進めるため、地域によるまちづくりセンター運営を推進します。

実施地域における地域課題の解決に向けた活動を対象とした新たな助成金制度を創設し、その活動を支援します。

事業費 42,500(20年度予算額 15,000)
主な内訳：センター委託費 31,050
地域交付金 7,500
達成目標 地域自主運営まちづくりセンター数
H18 - H22 10か所
21年度効果 累計6か所



●市民まちづくり活動を促進

市民まちづくり活動促進総合事業

市民まちづくり活動促進基本計画に基づき、市民の皆様への寄附による財政的支援をはじめ、情報、人材、活動の場の4つの支援を総合的に実施し、市民まちづくり活動を促進します。

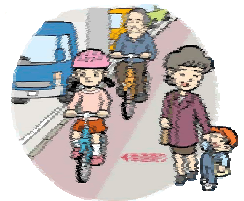
事業費 57,493(20年度予算額 44,000)
主な内訳：市民まちづくり活動促進助成金 30,000
市民まちづくり活動促進基金造成費 7,000
企業と市民まちづくり活動団体のマッチング支援事業 3,945
まちづくりフェスタ事業費 2,150
達成目標 市民まちづくり活動に参加経験のある人の割合
H18 41.1% H22 60.0%
21年度効果 55%



●自転車の安全利用の促進

さっぽろセーフティサイクリング2009

20年6月の改正道路交通法の施行を受け、自転車の安全な利用を促進するため、自転車利用者のマナー向上やルール遵守意識の向上を目指した啓発事業を実施します。



事業費 5,000(新規)
主な内訳 自転車実技教室、自転車安全利用啓発イベント、児童生徒向け啓発資料作成
達成目標 自転車は(軽)車両であり、車道通行が原則と知っている人の割合
H19 76.8% H21 95%

●平和の尊さを次世代へ語り継ぐ

平和都市宣言普及啓発事業

20年度に引き続き、8月を「平和月間」として、平和に関するイベントを集中して開催し、特にまちづくりの明日を担う子どもたちが、自ら平和について考える機会の充実に努めます。



< 主な見直し項目(効果額) >

- ・一般事務費の削減 124,593
- ・人件費の見直し 16,159

事業費 10,000(20年度予算額 10,000)
主な内訳：平和へのメッセージ募集、平和訪問団、原爆関係展、被爆体験講話・映画上映会、区の平和事業、子ども向け平和資料作成